

## 対応状況報告書

大 学 名： 大分大学評価実施年度： 令和3年度報告年度： 令和4年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 医学系研究科修士課程看護学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>対応のための取組としては、定員充足率を向上させるため、入試方法、修学支援の方法等について改善を検討している。また、看護学専攻部会内において入試広報用ポスターの配布先の検討を行い、令和5年度入試ポスターの配布を実施した。このように、状況の改善に向けて努力している。</p> <p>現在の状況としては、令和4年度看護学専攻入学者選抜（令和3年度実施）における定員10名に対して入学者は7名であり、令和4年度の入学定員充足率は70%であった。令和3年度の入学者6名から1名増加し、好転を見ているが、直近5年度における入学定員に対する入学者数の平均比率は52%にとどまる。</p> <p>そのため、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断できない。</p>

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>対応のための取組としては、令和3年度よりジョブ型研究インターンシップ推進協議会へ参画し、令和4年度より同インターンシップを正規の教育課程の単位科目として設定することにより、学生の進路の可能性を広げる取り組みを行っている。また、令和5年度の入学者選抜の方式を見直し、令和5年度春・秋入学から、出願時に修士課程又は博士前期課程在学中の者の第2次選考を廃止し、修了証明書の提出に置き換えた。このように、対策を検討し順次適用し、状況の改善に向けて努力している。</p> <p>現在の状況としては、令和4年度工学研究科博士後期課程入学者選抜における、定員8名に対して入学者は4名であり、入学定員充足率は50%となっている。今後、秋期選抜を予定していることから、入学者が増加し入学定員充足率が好転する余地はあるが、仮に令和4年度において入学定員充足率100%を達成しても、直近5年度における入学定員に対する入学者数の平均比率は55%にとどまる見込みである。</p> <p>そのため、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断できない。</p>

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「II 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。

## 対応状況報告書

大 学 名：大分大学

評価実施年度：令和3年度

報 告 年 度：令和5年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 医学系研究科修士課程看護学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>対応のための取組としては、定員充足率を向上させるため、教員不在により学生を受け入れる態勢ができていなかった「専門看護師コース（がん看護）」について、令和6年度看護学専攻入学者選抜での募集を再開できるよう担当教員を配置した。また、入試広報として、令和6年度入試ポスターと募集要項の配布先の検討、附属病院での進学説明会を引き続き行うが、今年度新たに看護管理職や進学に関心がある看護職等を対象に、教員の研究や大学院で学ぶ意義、修了生の活躍などを紹介する進学説明会の開催を予定している。定員充足に向け、このように、状況の改善に向けて努力している。</p> <p>現在の状況としては、令和5年度看護学専攻入学者選抜（令和4年度実施）における定員10名に対して入学者は4名であり、令和5年度の入学定員充足率は40%であった。令和4年度の入学者7名から3名減少し、直近5年度における入学定員に対する入学者数の平均比率は52%にとどまる。</p> <p>そのため、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断していない。</p>

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている
対応状況	<p>対応のための取組としては、学内他学部や各センター等のホームページにも社会人入試案内を掲載し、博士前期課程在学者からの進学だけではなく、社会人入学者の確保にも努めた。また、令和4年度実施分入試より、入学者選抜方式を見直し、それまで出願時に修士課程又は博士前期課程在学中の者のみを対象に実施してきた第2次選考を廃止することにより、入学希望者の拡充に努めた。</p> <p>結果として、定員8名に対し、工学研究科博士後期課程入学者選抜における入学者が令和4年度は4名（入学定員充足率：50%）であったのに対して、今年度は春季入学5名、秋季入学1名の計6名（入学定員充足率：75%）にまで改善している。</p> <p>直近5年度間における入学定員充足率の平均は48%にとどまるが、今後、秋季選抜で新たな入学者があれば、定員充足率がさらに好転する可能性があることから、秋季選抜の新たな入学者確保に向けて、さらなる改善を図っていく。</p> <p>以上のことから、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断していない。</p>

(注)

1. 機構で受けた大学機関別認証評価において、「改善を要する点」として指摘された事項の対応状況について記入してください。
2. 「改善を要する点」には、評価結果報告書の「II 基準ごとの評価」の【改善を要する点】に記載された内容をそのまま転記してください。
3. 「対応状況」には、「改善を要する点」として指摘された事項に関して改善された状況の具体的な内容及びその改善を実現した取組について、根拠資料・データ等とともに「対応状況」欄に記入してください。
4. 根拠資料・データ等は、その名称を記載のうえ、別添として添付してください。評価結果の追記公表の際に併せて公表しますので、資料番号については、既存資料と重複しないよう、既存資料の資料番号以降の連番としてください。
5. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の一年度目または二年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応の取組及び根拠資料・データ等に記載は求めないこととします。
6. 評価を受けた年度の翌年度を一年度目として起算した場合の三年度目の6月30日までに改善していると判断していない事項については、対応状況欄にその旨のみを記載してください。

## 対応状況報告書

大 学 名： 大分大学

評価実施年度： 令和3年度

報 告 年 度： 令和6年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 医学系研究科修士課程看護学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>令和5年4月に修士課程看護学専攻部会において、入学定員充足の現状分析と改善策を検討した。この内容を医学部執行部会議において共有し、医学部の課題として位置付けた上で、以下のとおり入学定員充足に向けた取組を行った。</p> <p><b>【入学定員充足のための改善に向けた取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 専門看護師コース（がん看護）の受入れ再開</li><li>・ 附属病院での進学説明会の開催</li><li>・ 大学院公開セミナーの開催（キャリアセミナー、がん看護専門看護師の育成啓発公開セミナー）</li><li>・ 公開講座の開催</li><li>・ 学部生に向けた大学院説明等</li></ul> <p>以上のとおり取り組んだが、令和6年度看護学専攻入学者選抜（令和5年度実施）における充足率は定員10名に対して入学者は3名であり、直近5年度における入学定員に対する入学者数の平均比率も50%にとどまる結果となった。</p> <p>そのため、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断していない。</p> <p>なお、ご指摘のあった課題も含め、今後の将来計画の実現に向けた本学大学院の在り方について、改組も含めた全学的な検討を行っている。</p>

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○ 工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている
対応状況	<p>工学研究科博士前期課程からの進学を促すために、博士前期課程において投稿・掲載された査読付き学術論文も学位論文の審査申請に必要な論文数に含めることができるよう内部申合せを改正した。また、博士前期課程の学生に対して博士後期課程への進学説明を丁寧に行い、進学者の確保に努めた。結果として、令和5年度は工学研究科博士前期課程からの進学者が2名であったが、令和6年度は3名に改善することができた。</p> <p>現時点で、直近5年度間における入学定員充足率は52.5%にとどまるが、外国人研究生1名および社会人1名の計2名が秋季選抜を受験予定であり、その2名が入学すれば令和6年度入学者は入学定員充足率57.5%となる。また、さらに新たな入学者があれば、入学定員充足率がさらに好転する可能性があることから、秋季選抜の新たな入学者確保に向けて、さらなる改善を図っていく。</p> <p>以上のことから、現時点ではまだ本基準について改善された状況にあるとは判断していない。</p> <p>なお、定員充足率の改善に向けて、定員の見直しを予定している。</p> <p>さらに、ご指摘のあった課題も含め、今後の将来計画の実現に向けた本学大学院の在り方について、改組も含めた全学的な検討を行っている。</p>

## 対応状況報告書

大 学 名：大分大学

評価実施年度：令和3年度

報 告 年 度：令和7年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○医学系研究科修士課程看護学専攻において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている。
対応状況	<p>上記の改善を要する点の指摘に対して、修士課程看護学専攻部会（令和6年4月9日、7月2日、9月3日）及び医学部執行部会議（令和6年7月4日）において現状分析と改善策を検討・共有し、医学部の最重要課題として認識し、次の入学定員充足に向けた取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・指導教員の資格を有する教員の確保として、看護管理学を専門とする定年退職教授の後任補充、精神看護学を専門とする教員の准教授昇任をすすめる。</li><li>・専門看護師コース（がん看護）の受け入れ再開2年目であり、がんプロ研修等を通してコースを紹介し志願者を確保する。</li><li>・ハイブリッド説明相談会（令和6年6月7日）、ハイブリッド公開講座・説明相談会（令和6年8月30日）、附属病院看護師対象説明相談会（令和6年8月7日）、看護学科3年生対象進路説明会（令和6年12月20日）を行い、大学院で学ぶ意義や具体的なカリキュラム、学修方法について説明を行う。</li><li>・看護学専攻部会（講師以上）において、教員個々より志願者確保状況を報告・共有する。</li></ul> <p>以上のとおり取り組んだ結果、令和3年度から令和7年度の5年度間における入学定員充足率の平均は68.0%にとどまっているが、令和7年度入試の充足率は140%（入学者14名）と、前年度の充足率30%（入学者3名）から大幅に改善された。今後も引き続き大学院修士課程進学に関する情報発信等に取り組み、さらなる改善を図っていく。</p>

## 対応状況報告書

大学名：大分大学

評価実施年度：令和3年度

報告年度：令和7年度

対象となる基準	基準5-3
改善を要する点	○工学研究科博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている
対応状況	<p>・工学研究科および理工学研究科（博士後期課程）：0.71倍（2021～2024年度：工学研究科、2025年度：理工学研究科）と改善されている</p> <p>上記の改善を要する点の指摘に対し、本学博士前期課程およびその修了生、大分大学教員との共同研究を行なっている学位を取得していない民間企業研究者の進学を促すため、学位論文（課程博士）の申請に必要な研究業績（論文数）の適用範囲を拡大する内部申合せの改正を行った。</p> <p>上記のとおり内部申合せを改正するとともに、博士前期課程の学生に対して博士後期課程への進学説明を丁寧に実施することや、技術研究所等に就職した博士前期課程修了生へ上記申合せ変更等の説明を行うなど、進学者の確保に努めた。また、令和7年度理工学研究科への改組に合わせ定員の見直し（8名→6名）を行った。</p> <p>結果として、令和7年度は定員6名に対し7名の入学者数となり、定員を満たすとともに、令和3年度から令和7年度の5年度間における入学定員充足率の平均も71%と70%を超えた。今後も大学院博士後期課程進学に関する情報発信等を行い、さらなる改善を図っていく。</p> <p><b>【根拠資料・データ】</b></p> <p>・認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式2（令和7年5月1日現在）</p>